

特 39
17

圖書

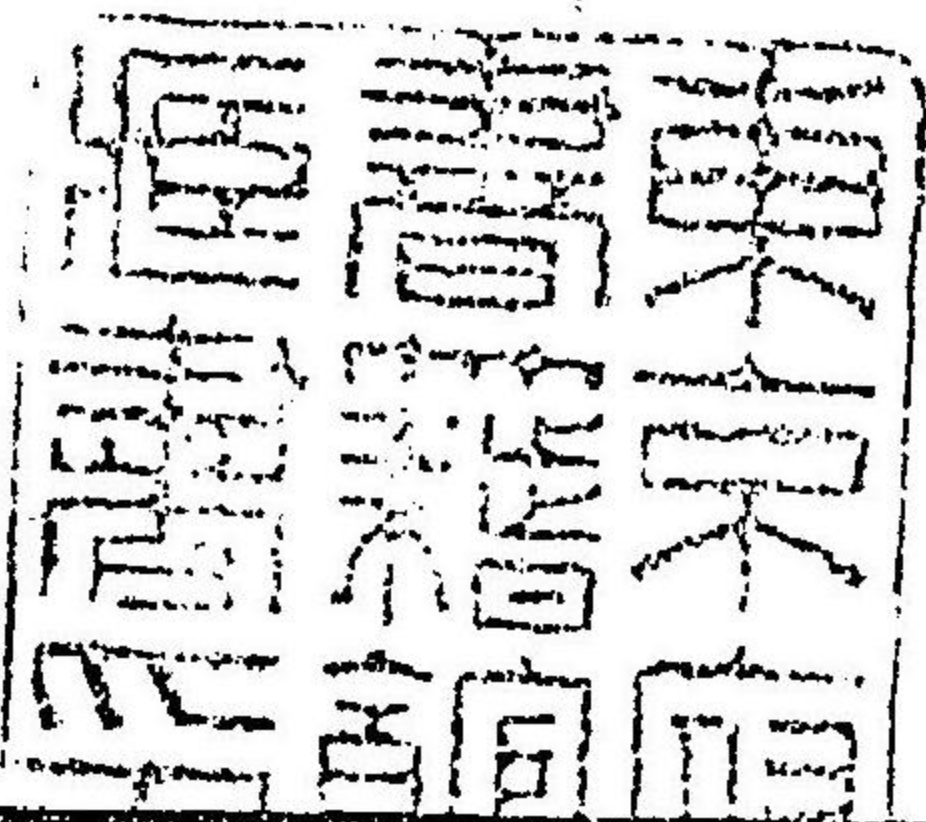
大日本教育會圖書館			
三	二	三	五
函	架	號	冊

表
新

區
架
號

萩原 倫
高橋 芳好
編纂
輯錄

新律附例解補正四



佛蘭西刑
法第二百
九條
九、殺人
預謀者、
害ヲ加ヘ
及ヒ人ノ
來ルヲ待
テ、殺シ
テ、之ヲ
シテ、罪
トスル者
トシ、陰
謀ノ罪
トスル者
トシ、陰
謀ノ罪
トスル者
トスル者



明治九年圖書局交付

人命律上

謀殺

凡人ヲ謀殺スルニ造意者
ハ、斬。從ニシテ、加功スル者
ハ、絞。加功セサル者ハ、流三
等。
若シ傷シテ死セサル。造意
者ハ、絞。從ニシテ、加功スル

云々ヲ犯
セシ者ハ、
死刑ニ處
シラルヘ

者ハ。流三等。加功セサル者
ハ。徒三年。
若シ謀テ已ニ行フト雖モ。
未タ人ヲ傷セサル。造意者
ハ。徒三年。從ハ。同ク行ハス
ト雖モ。杖一百。
其造意者ハ。並ニ身行ハス
ト雖モ。仍ホ首ト爲シテ論
ス。從ニシテ行ハサル者ハ。

各行ヒテ。加功セサル者ニ。
一等ヲ減ス。
若シ因テ財ヲ得ル者ハ。強
盜ニ同シク。首從ヲ分タス。
罪ヲ論ス。

○附條例

第一百六十條 凡人ヲ殺サ
ント謀リ。未タ行ハスト
雖モ。謀狀。顯跡アル者。首

ハ。懲役百日。從ハ。懲役五
十日。

第百六十一條 凡謀殺已

行未行ノ罪犯。並ニ。罪。死
ニ至ラサル者。處斷シ訖
レハ。親屬鄰佑ニ。再犯ノ
念ナキコトヲ。保證セシメ。
始テ放還スルコトヲ聽ス。
若シ保人ナケレハ。獄則

補獄刑懲治監律例第五條欄外ニ載ス
並見スヘシ

ニ照シテ。懲治監ニ入レ。
悔過ノ日ヲ待テ。始テ放
還スルコトヲ聽ス。

第百六十二條 凡人ヲ殺

サント謀リ。已ニ行フテ。
其人。知覺奔逃シ。未タ傷
ヲ受ケスト雖モ。失跌。及
口墮水等。奔脫ニ因テ。他
所ニ死スル者。造意者ハ。

懲役十年。從タル者ハ。懲役三年。若シ兇悍ニ追ラレテ。當時失跌シテ死スル者。造意者ハ。絞。從タル者ハ。懲役十年。

第六十三條 凡人ヲ謀殺セント欲シテ。謀ヲ舉ル時。其謀ラル、ノ人。謀機ヲ知覺シテ。卻テ謀者

ヲ殺ス者ハ。故殺律ニ依リ。已ニ行フ時ニ臨ミ。卻テ殺ス者ハ。罪人拒捕而殺律ニ依リ。殺スノ時ニ臨ミ。卻テ殺ス者ハ。捕吏格殺律ニ依リ。論スルヲ勿レ。

第六十四條 凡嬰兒ヲ殺ス者ハ。各等親ニ照シ

謀故殺本條ニ依テ。科斷ス。若シ穩婆。囑託ヲ受テ殺ス者ハ。囑託スル者ト。同罪。

謀殺本屬長官

凡吏卒軍民。本屬ノ勅任長官ヲ謀殺スルニ。已ニ行フ者ハ。流三等。已ニ傷スル者ハ。斬。已ニ殺ス者ハ。皆梟。

若シ奏任長官ヲ謀殺スルニ。已ニ行フ者ハ。流二等。已ニ傷スル者ハ。絞。已ニ殺ス者ハ。皆斬。

若シ判任長官ヲ謀殺スルニ。已ニ行フ者ハ。流一等。已ニ傷スル者ハ。絞。已ニ殺ス者ハ。皆斬。

其長官及ロ本屬ニ非ル者

壬申九月四日司法省伺 謀殺本屬長官ノ律ハ元來府藩縣ノ爲ニ設ク其本屬及ヒ長官ニ非ル者ハ勅奏判ヲ分タス凡人謀殺ニ依ルノ法ニ候處正院始メ諸省ノ官員ヲ謀殺スルノ律別ニ無之ニ付右律ニ照據來候得共凡人謀殺ニテハ不都合ニ相見候間別紙之通御改正相成度此段相伺候也
御朱書 伺之通
全年九月七日第二百五十四號御布告

ハ。已ニ殺スト雖モ。凡人謀殺ニ依リ。首從ヲ分チ。罪ヲ科ス。

○謀殺官吏律 原謀殺本屬長官律

第百六十五條 凡勅任官ヲ謀殺スルニ。已ニ行フ者。首ハ。懲役十年。從ハ。懲役七年。已ニ傷スル者。首ハ。斬。從ニシテ。加功スル

改正

凡勅奏判官吏ヲ殺ス者ハ凡人謀殺ニ依ル律ヲ改メ一體ニ本屬勅奏判長官ヲ謀殺スル律ニ照テ科斷ス
全年十一月五日第三百三十二號御布告 謀殺本屬長官及ヒ毆罵本屬長官三律改正

同七年七月九日臨時裁判所申渡

高知縣士族 武市熊吉

外 八名へ

其方儀征韓ノ儀行ハレハルヲ不平ニ存スルヨリ岩倉右大臣ヲ殺害シ廟議ヲ動サント欲シ同志九人申合當一月十四日夜喰違ニ於テ刺傷スル科ニ依リ
除族之上斬罪申付候事

者ハ。懲役終身。加功セサル者ハ。懲役十年。已ニ殺ス者ハ。皆斬。

若シ奏任官ヲ謀殺スルニ已ニ行フ者。首ハ。懲役七年。從ハ。懲役五年。已ニ傷スル者。首ハ。絞。從ニシテ。加功スル者ハ。懲役終身。加功セサル者ハ。懲役

翻東京裁判所伺 鷹川謙〔元第五大區三小區〕
取締組 權大警部西長言ヲ恨ルコト
奉職 アリ 當月二十日朝長言ヲ下谷ニ長町
路旁ニ要殺シ自訴云々
七年七月八日指令 律例第六十五
條判任官ヲ謀殺スル者
斬罪 鷹川 謙

十年。已ニ殺ス者ハ。皆斬。
若シ判任官ヲ謀殺スル
ニ。已ニ行フ者。首ハ。懲
役五年。從ハ。懲殺三年。已
ニ傷スル者。首ハ。絞。從ニ
シテ加功スル者ハ。懲役
終身。加功セサル者ハ。懲
役十年。已ニ殺ス者ハ。皆
斬。

○附條例

第百六十六條 凡判任官
勅任官ヲ謀殺スルニ。已
ニ行フ者。首ハ。懲役七年。
從ハ。懲役五年。已ニ傷ス
ル者。首ハ。絞。從ニシテ加
功スル者ハ。懲役終身。加
功セサル者ハ。懲役五年。
已ニ殺ス者ハ。皆斬。若シ

奏任官ヲ謀殺スルニ。已ニ行フ者。首ハ。懲役五年。從ハ。懲役三年。已ニ傷スル者。首ハ。絞。從ニシテ加功スル者ハ。懲役終身。加功セサル者ハ。懲役五年。已ニ殺ス者ハ。皆斬。
第百六十七條 凡奏任官。勅任官ヲ謀殺スル者ハ。

神奈川裁判所伺 武藏國都筑郡奈良村農基云々曾父ノ怒ニ觸レ他家ニ遣リ雇人トシ妻ヲモ離別セラレシハ必竟身ノ不長ヨリトハ申シ乍ラ其節親屬ノ諂入モ聞入サルハ父ノ心得モ亦不宜ト思念スルノ折大醉ニ及ヒ遺恨

判任官。奏任官ヲ謀殺スルト。罪同シ。其勅任官。奏任官ヲ謀殺シ。及ヒ奏任官。判任官ヲ謀殺スル者ハ。凡人。謀殺ヲ以テ論ス。
謀殺祖父母父母
凡祖父母。父母。及ヒ伯叔父。姑。兄。姉。若クハ外祖父母。夫。夫ノ祖父母。父母。ヲ謀殺ス

ニ堪難ク忽然殺意ヲ發シ夜九時父ノ寢所ヘ忍入り謀殺ニ及ヒ候云々
七年七月十四日指令 人命律祖父母父母ヲ謀殺スルニ已ニ殺ス者

梟示 野川安五郎

三重縣伺罪案節錄 伊勢國朝明郡某村農内田喜六元來懦弱ノ性質云々借錢等アルヲ以テ兄米藏ヨリ毎、折檻ヲ受ケ心苦キ餘リ同人ヲ失ヒナハ家跡モ續カレ萬事氣儘ニナル可クト存シ醉眠ヲ窺ヒ脇差ニテ咽喉ヲ刺通シ及殺害候

六年九月八日指令 人命律兄ヲ謀殺スル者

梟示 内田喜六

ルニ。已ニ行フ者ハ。皆斬。已ニ殺ス者ハ。皆梟。三等親以下ノ尊長ヲ謀殺スルニ。已ニ行フ者。首ハ。流一等。從ハ。徒三年。已ニ傷スル者。首ハ。絞。從ハ。加功スル者。加功セサル者。並ニ凡人ト同ク。罪ヲ論ス。已ニ殺ス者ハ。皆斬若シ五等親以上ノ尊長。卑

幼ヲ謀殺スルニ。已ニ行フ者ハ。各圖毆律内。尊長故殺。卑幼律ニ依リ。二等ヲ減ス。已ニ傷スル者ハ。一等ヲ減ス。已ニ殺ス者ハ。故殺律ニ依ル。

○附條例

第百六十八條 凡祖父母。父母。及ヒ伯叔父。姑。兄。姊。

大分縣何農佐々倉左五郎妻ヨシ姦通ノ未姦夫本夫ニ殺意ヲ起シ密會ノ節本夫謀殺ヲ諾セシニ付姦夫一人ニテ本夫ヲ狙撃セシニ同人傷シテ死セス云々ノ指令八月一日人命律謀殺祖父母父母條例夫ヲ殺サント謀リ已ニ行フ者絞罪

ヨシ

若クハ外祖父母夫夫ノ祖父母父母ヲ謀殺スルニ。已ニ行フ者ハ。皆斬ニ處スル律ヲ改メ。皆絞。

謀殺家長

凡奴婢家長ヲ謀殺スルニ。已ニ行フ者ハ。流三等。已ニ傷スル者ハ。斬。已ニ殺ス者ハ。皆梟。

親獲于姦所則姦有憑據發于義憤事出倉卒故特原其擅殺之罪內註或調戲未

若シ雇人。家長ヲ謀殺スルニ。已ニ行フ者ハ。流一等。已ニ傷スル者ハ。絞。已ニ殺ス者ハ。皆斬。

殺死姦夫

凡妻妾人ト姦通スルニ。本夫姦所ニ於テ。親ヲ姦夫姦婦ヲ獲テ。即時ニ殺ス者ハ。論スルヲ勿レ。若シ本夫止

成姦或雖
成姦已就
拘執或姦
所捕獲皆
不得拘此
律內註
佛蘭西刑
法第三百
二十四條
婦ノ姦通
ノ場合ニ
於テ夫ノ
其家ニ於
テ其婦及
ロ姦夫等
ノ現ニ其
罪犯ヲ行
フヲ知發
シタル時
ハ其罪ヲ
赦宥スヘ
シ

福島縣伺 岩代國若瀨郡下小屋村農
某妻イシ姦夫同謀本夫ヲ殺ス伺ノ指
令七年六月九日 殺死姦夫條妻姦ニ因リ同
謀シテ本夫ヲ殺ス者
身示
同條姦ニ因リ同謀云々同上
斬罪 班目廣吉

タ姦夫ヲ殺ス者ハ姦婦ハ
和姦律ニ依リ罪ヲ科ス止
タ姦婦ヲ殺ス者ハ姦夫ハ
流三等本夫ハ並ニ論スル
一勿レ
其妻妾姦ニ因リ同謀シテ
本夫ヲ殺ス者ハ臬姦夫ハ
斬若シ姦夫自ラ本夫ヲ殺
ス者ハ姦婦情ヲ知ラスト

姦婦雖不
知情亦坐
絞蓋姦夫
之殺親夫
之死實因
姦而起固
不得免于
死而止科
以姦罪也
內註
已殺者姦
婦坐絞與
姦夫同得
死罪行而
未傷可止
科姦罪已

殺死姦夫

雖モ絞

○附條例

第百六十九條 凡姦夫自
ラ本夫ヲ殺ス者ハ姦婦
情ヲ知ラスト雖モ絞改
テ懲役終身
第百七十條 凡姦婦自ラ
本夫ヲ殺ス者姦夫果シ
テ情ヲ知ラストハ止タ

傷者照已
殺固不可
科姦罪似
太輕應比
照爲從減
一等斬註

新治裁判所何ノ指令 七年二月十日 本夫曾
テ姦所ニ在テ自ラ姦夫姦婦ヲ獲テ督

姦罪ヲ科ス。

第一百七十一條 凡姦婦過

ヲ悔ヒ拒絶スル後姦夫

姦好ノ續キ難キヲ憤リ

本夫及ヒ祖父母父母ヲ

殺死スル者拒絶ノ證據

明白ナレハ婦女ハ止タ

姦罪ヲ科ス。

第一百七十二條 凡姦夫姦

賣スルニ悔悟謝罪後猶改メス一時復
田間ニ姦通スルヲ見テ捕ヘントスレ
ト走テ獲ス翌日奸夫傲然云々一時義
恐ニ堪ヘス姦夫姦婦ヲ連殺スルニ至
ル勢然ラサルヲ得サルノ情狀ヲ酌量
シ 人命律殺死姦夫條例凡姦夫姦婦
云々本夫即時逐テ門外ニ至リ云々ト
アルヲ以テ論シ

無罪 石毛周助

奈良縣同 與七郎儀妻里加竹二郎ト
和姦致シ姦所ニ於テ與七郎差押候所
詫入候ニ付一時内濟云々姦事猶止サ
ルニ付云々竹二郎暴言ヲ發候ヨリ恐
怒ノ餘途上ニ於テ忽然竹二郎ヲ及殺
害候云々

六年八月三十日指令 人命律殺死姦
夫條例若シ姦所及ヒ即時ニ非スシテ
姦夫ヲ殺傷スル者審糾スルニ姦情確
實ナレハ闘殺傷ニ二等ヲ減ス

婦姦所ニ於テ本夫ニ撞

見セラレ直ニ脱逃スル

ニ本夫即時逐テ門外ニ

至リ殺ス者ハ姦所ト同

シ若シ姦所及ヒ即時ニ

非スシテ姦夫ヲ殺傷ス

ル者審糾スルニ姦情確

實ナレハ闘殺傷ニ二等

ヲ減ス止タ姦婦ヲ殺傷

懲役七年 鳥越與七郎
犯姦律犯姦條例 凡和姦夫アル者懲
役一年妾ハ一等ヲ減ス
懲役百日 里加

此條是指
謀殺言若
兩家有爭
奪之事聚
衆格闘以
致毆殺一

スル者折傷以上ハ闘殺
傷ニ五等ヲ減ス姦夫ハ
和姦本條ニ依ル若シ姦
情曖昧確據ナクシテ男
婦ヲ殺傷スル者ハ各謀
故闘殺傷本條ニ依ル
殺一家三人
凡謀殺故殺放火行盜シテ
一家ノ死罪ニ非サル三人

家三人自
常別論不
用此律蓋
謀殺是處
兇殺處定
計蓄策必
欲殺害其
人至子殺
及一家三
人則見惡
已極故特
立此重典
以處之若
一時爭鬪
木無殺入
之心亦非
殺人之事
因而殺死
三命其致
殺之原與
此律異也
斬社

以上ヲ殺シ若クハ人ヲ支
解スル者ハ皆梟

○附條例

第一百七十三條 凡一家ノ
死罪ニ非サル三人以上
ヲ殺スト稱スルハ雇人
ト雖モ同居ニ係ル者及
ト同居セスト雖モ父子
兄弟等至親ニ係ル者皆

是ナリ。

壓魅人

凡壓魅ヲ行ヒ符書ヲ造リ
咒詛シテ人ヲ殺サント欲
スル者ハ各謀殺ヲ以テ論
ス止々人ヲ疾苦ヒシメ
ト欲スル者ハ謀殺已行未
傷ニ二等ヲ減ス。

毒藥殺人

凡毒藥ヲ用ヒテ人ヲ殺シ
及ヒ藥シテ死セサル者ハ
各謀殺律ニ依テ論ス買テ
未タ用ヒサル者ハ徒二年
半情ヲ知テ毒藥ヲ賣ル者
ハ同罪罪流三等ニ止ル知
ラサル者ハ坐セス。

○附條例

第一百七十四條 凡人ヲ殺

佛蘭西刑法第二百五條、故意ヲ以テ殺人ヲ爲シ、殺シト爲サシト爲シ、殺シト爲ルノ罪ト云、第三百九條ノ若シ、殺シノ故意ナク、以テ毆撃シ、其毆傷

スノ心ナシト雖モ、毒藥ヲ用ロテ、故テニ、疾苦セシムル者ハ、懲役八十日、
闘毆及故殺
凡闘毆シテ、人ヲ殺ス者ハ、手足、他物、金刃ヲ問ハス、並ニ絞、故殺スル者ハ、斬、若シ同ク謀リ、共ニ人ヲ毆チ、因テ死ニ致スニ、手ヲ下

ヲ受ケシ者ノ死ニ至リ、其犯人ハ、其於テ有期ノ徒刑ニ處セラシ、ル可シ、

シ、致命傷ヲ爲ス者ハ、絞、原謀者ハ、共ニ毆ト否ヲ問ハス、流三等、餘人ハ手ヲ下スト雖モ、致命傷ヲ爲サ、ル者ハ、杖九十、

○附條例
第七十五條 凡闘毆人ヲ殺ス者ハ、絞、改テ懲役終身、

亂毆不知
前後輕重
者或二人
共打一人
其傷同所
或二人同
時各勝人
一目並須
以原謀為
首餘人為
從若無原
謀以先圖
人為首註

毆卓縣伺 五犯云々罪案ノ通致命傷
ノ者明白ナラスト雖モ善七儀ハ先ニ
手ヲ下シ其上主トシテ毆傷ヲナス者
ニ付人命律圖殺條中同ク謀リ共ニ人
ヲ毆テ云々トアルニ擬シ絞罪半兵衛
外三人ハ權衛ヲ圖毆律圖毆人ノ肢體
ヲ折跌シ云々瘡疾ニ致ス者ノ條ニ取
リ徒三年可申付哉
六年八月廿八日指令 圖毆及故殺條
例亂毆シテ人ヲ殺シ傷ノ先後輕重ヲ
知ラサルノ初圖者 毆股善七
懲役終身
亂毆シテ人ヲ殺シ傷ノ先後輕重ヲ知
ラヌ初圖者ヲ重罪ニ坐シ其餘人
懲役九十日 小田川半兵衛
外三名

第七十六條 凡亂毆シ
テ人ヲ殺シ傷ノ先後輕
重ヲ知ラサル者原謀ア
レハ原謀者ヲ懲役終身
ニ處ス若シ原謀共ニ毆
サレハ初圖者ヲ懲役終
身ニ處シ原謀者ハ懲役
十年餘人ハ並ニ懲役九
十日

第七十七條 凡亂毆シ

テ人ヲ殺シ先後輕重ヲ
知ラサル者若クハ原謀
ナク夥共ニ毆テ各致命重
傷ヲ為ス者一人實ニ罪
ヲ畏レテ自盡シ及ヒ已
ニ獄ニ在リ或ハ押解中
途ニ在リテ病斃スル者
アレハ一等ヲ減シ懲役

十年ニ處ス。

第一百七十八條 凡同謀共

ニ人ヲ毆テ。傷皆致命ニ

シテ。即時身死スレハ。後

ニ手ヲ下シ。傷ヲ成ス

重キ者ヲ。懲役終身ニ處

ス。若シ時日ヲ經テ。身死

スルニ至ル者ハ。何傷死

ニ致ス。トテ。究明シテ。傷

ヲ成ス。ト重キ者ヲ。懲役
終身ニ處ス。若シ原謀共
ニ毆テ。亦致命重傷ヲ爲
スニ係ラハ。原謀者ヲ。懲
役終身ニ處ス。

第一百七十九條 凡人ト爭

論鬪毆シテ。臨時殺意ヲ

起シ。人ヲ殺ス者ハ。故殺

ニ坐ス。若シ爭鬪ノ後。仍

壬申二月廿九日司法省伺 鬪毆中臨
時殺意ヲ生シ殺訖ル者ハ故殺ト爲シ
傷ニ止ル者ハ鬪毆傷ヲ以テ論シ其鬪
毆ニ依ラス忽然殺意ヲ生シ殺傷ニ及
フ者ハ謀殺傷ヲ以テ論シ來候處即今
律例治化ノ漸ヲ逐ヒ可成丈寬恕ノ法
ニ從ヒ死刑ヲ省キ候様相成度就テハ
以來鬪毆ニ依ラスト雖モ忽然殺意ヲ

生シ曾テ區畫經營ヲ經ス即時殺訖ル者ハ故殺ニ依リ傷シテ幸ニ不死者ハ闘殺傷ニ依リ以テ輕典ニ從ヒ候様相成度云々

三月廿日御朱書 伺之通

六年八月廿五日山梨裁判所何ノ指令該犯爭鬪ノ際殺意ヲ生シ順作ノ咽喉ヲ刃傷ス順作其場ヲ逸去シ傷ヲ真ミ石ヲ擲ヘ反撃セントシ失跌滾墜シテ崖下ニ死ス其死自カラ取ルト言ヒ難シト雖モ又奔逃ニ因ルニ非ス因テ人命律闘毆及ヒ故殺條人ヲ故殺スルニ擬シ斬一等ヲ量減シ

懲役終身

清水廣作

青森縣伺 當縣士族其罪案云々人命律故殺條ニ照シ可然或然ニ犯狀審料スルニ其原由ハ誤テ彼ノ足ヲ踏ミ彼ノ憤ルヲ再應詔入ト雖モ開入レサルヨリ其情ノ起ル勢止ムヲ得サルニ出

ホ餘怒ヲ尋キ。追逐シテ

兇殺シ。及口爭鬪ニ因ル

ニ非スト雖モ。臨時殺意

ヲ起シテ殺ス者。預謀ノ

顯跡ヲキハ。並ニ。故殺ヲ

以テ論ス。其傷シテ。死セ

サル者ハ。仍ホ鬪毆傷ニ

依ル。

屏去服食

テ當場故殺ノ念慮アルニ非ス勢鬪毆ノ起端ニ似タリ然ト雖モ未タ相毆テ殺傷ヲ期セズ傷死ニ致スニハ非ス何分難決此段相伺候也

七年二月十二日指令 故殺トハ我殺意アリテ彼ハ不然ナリ今該犯ノ清八

ニ於ル彼素ヨリ殺意ヲ挾シ眞劍勝負ヲ促ス我之ニ應シ其隙ヲ見テ先ンシテ彼ヲ殺死ス之ヲ情法ニ量ルニ故殺ヲ以テ擬スル未タ憾ナシト云ヘカラハ依テ人命律鬪毆シテ人ヲ殺スト云ニ擬シ閉刑ニ換ヘ

禁錮終身

飯岡勝美

凡人ノ服用。飲食ノ物ヲ屏

去シ。若クハ物ヲ以テ人ノ

耳鼻。及口孔竅中ニ置キ。傷

損スル所アル者ハ。各鬪毆

傷ニ。一等ヲ加ヘ。罪。流三等

ニ止ル。因テ死ニ至ル者ハ。

絞。

若シ故サラニ。蛇蝎毒蟲ヲ

用ヒ。人ヲ咬傷セシムル者

ハ。闘毆傷ニ。一等ヲ加ヘ。罪流三等ニ止ル。因テ死ニ致ス者ハ斬。

○附條例

第百八十條 凡人ノ服用。飲食ノ物ヲ屏去シ。若クハ。物ヲ以テ。人ノ耳鼻。及口孔竅中ニ置キ。因テ死ニ至ル者ハ。絞。改テ懲役

終身。若シ。謀故ノ情アル者ハ。各本律ニ依ル。

新律綱領卷四

人命律下

戲殺傷人

凡戲ニ因テ。人ヲ殺傷スル者ハ。闘殺傷ニ。二等ヲ減ス。若シ高ニ乘リ。危ヲ履ミ。因テ相戲レ殺傷スル者ハ。一

等ヲ減ス

誤殺傍人

凡闘毆シテ。誤テ傍人ヲ殺傷スル者ハ。闘殺傷ニ準シテ論ス。罪流三等ニ止ル。其謀殺。故殺ヲ行ヒ。誤テ傍人ヲ殺ス者ハ。故殺ヲ以テ論シ。傷スル者ハ。仍ホ闘毆ヲ以テ論ス。

詐稱殺人

凡津河。水深ク泥濘ナルヲ。平淺ト詐稱シ。及ヒ橋梁渡船。朽漏ナルヲ。牢固ト詐稱シ。人ヲ過渡セシメ。因テ陷溺死傷ニ致ス者ハ。闘殺傷ヲ以テ論ス。

過失殺傷人

凡過失ニテ。人ヲ殺傷スル

過失謂耳
目所不及
思慮所不
到如彈射

禽獸因事
投擲磚瓦
不期而殺
人者或因
升高險足
有蹉跌累
及同伴或
駕船使風
乘馬驚走
馳車下披
勢不能止
或共舉重
物力不能
制損及同
舉物者凡
初無害入
之意而偶
致殺傷人
者原律註

大坂裁判所坪内長藏等疎失ノ餘數十
萬ノ彈藥暴發人ヲ殺傷シ家屋船隻ヲ
燒燬スル處分伺ノ指令七年一月火
ノ原因何ニ出ルカ審カナラスト雖モ
畢竟其變尤成心ス可キ物ヲ老少託ス
可カラサルノ人ニ託スルニ由ルヲ以
テ雜犯律不應爲ノ重ニ擬シ
懲役七十日 坪内長藏
〔從一等ヲ減ス〕
彈藥暴發人ヲ殺傷スルハ過失ヲ以テ

者ハ各鬪殺傷ニ準シ。法ニ
依リ。收贖シテ其家ニ給付
ス。
○附條例
第百八十一條 凡過失殺
傷收贖ハ官吏華士族平
民ヲ分タス。一體ニ本圖
ニ照シ。追シテ其家ニ給
ス。

論セズ依テ醫藥埋葬ノ資ヲ追給シ及
ヒ家屋船隻賠償セシムルニ及ハス

第百八十二條 凡一人二
人ヲ過失殺スル者ハ。例
ニ照シ。金八十圓ヲ收贖
シテ均シク二人ニ分給
シ。二人一人ヲ過失殺ス
ル者ハ。金四十圓ヲ二人
ニ分給シテ一人ニ給付
ス。一人二人ヲ傷シ。二人
一人ヲ傷スル者モ亦此

例ニ依ル

毆死有罪妻妾

凡妻妾。夫ノ祖父母。父母ヲ
毆罵スルニ因テ。夫官ニ告
ケス。擅ニ殺ス者ハ。杖九十。
祖父母。父母ノ親ヲ告ルヲ
待テ乃坐ス。
若シ夫。罪アル妻妾ヲ毆罵
シ。妻妾。因テ自死スル者ハ。

論スルヲ勿レ。

○附條例

第百八十三條 凡妻妾。夫
ノ祖父母。父母ヲ毆罵ス
ルニ因テ。夫官ニ告ケス。
擅ニ殺ス者ハ。杖九十。改
テ懲役一年。其傷スルニ
因テ擅ニ殺ス者ハ。懲役
九十日。

殺奴婢

凡奴婢。死罪ヲ犯スニ。家長。官ニ告ケズ。擅ニ殺ス者ハ。杖七十。
若シ罪ナキニ。毆殺スル者ハ。徒三年。故殺スル者ハ。流二等。
若シ家長。雇人ヲ毆ツハ。折傷ニ非ルハ。論スルヲ勿レ。

折傷以上ハ。凡人ニ。三等ヲ減ス。因テ死ニ至ル者ハ。流一等。故殺スル者ハ。絞。

○改正殺雇人律 原殺奴婢律

第百八十四條 凡雇人。死罪ヲ犯スニ。家長。官ニ告ケズ。擅ニ殺ス者ハ。懲役八十日。

第百八十五條 凡家長。雇人ヲ毆チ。死ニ至ル者ハ。流一等。改テ懲役十年。

將屍圖賴

凡祖父母。父母。子孫ヲ故殺シ。及ヒ家長。奴婢ヲ故殺シテ。人ニ圖賴ヒカケスル者ハ。各本罪ニ。一等ヲ加フ。若シ子孫。及ヒ奴婢。已ニ死

スル。祖父母。父母。及ヒ家長ノ屍ヲ將テ。人ニ圖賴スル者ハ。徒三年。二等親ノ尊長ノ屍ヲ將テスル者ハ。徒二年。三等親以下ノ尊長ハ。各一等ヲ遞減ス。若シ尊長。已ニ死スル卑幼。及ヒ他人ノ屍ヲ將テ。人ニ圖賴スル者ハ。杖八十。

其官ニ告ル者ハ。誣告律ニ依テ罪ヲ論ス。因テ財物ヲ詐リ取ル者ハ。賊ニ計ヘ。竊盜ニ準シ重キニ從テ之ヲ科ス。

○附條例

第百八十六條 凡雇人。已ニ死スル家長ノ屍ヲ將テ。人ニ圖賴スル者ハ。懲

役百日。

弓銃殺傷人

凡故ナク。弓箭銃砲ヲ放チ。及口劔刃ヲ挺ク者ハ。人ヲ傷セスト雖モ。杖六十。傷スル者ハ。凡圍傷ヲ以テ論ス。因テ死ニ致ス者ハ。絞。士族卒ハ。破廉恥甚ヲ以テ論ス。

○改正弓銃殺傷人律
第百八十七條 凡故ナク。弓箭銃砲ヲ放チ。及ヒ劔刃ヲ挺ク者ハ。人ヲ傷セスト雖モ。杖六十。改テ懲役三十日。傷スル者ハ。凡聞毆傷ヲ以テ論ス。因テ死ニ致ス者ハ。絞。改テ懲役終身。

第百八十八條 凡曠野無人ノ地ニ於テ。故ナク。弓銃ヲ放チ。因テ人ヲ殺傷スル者ハ。過失殺傷ヲ以テ論ス。
第百八十九條 凡弓銃ヲ放チ。及ヒ劔刃ヲ挺ク者。華士族ハ。破廉耻甚ヲ以テ論スル律ヲ改メ。一體

七年一月 二人共ニ
 斃摩縣同ノ指令 十三日
 時夜故ナク街市ニ馬ヲ馳セ過テ人ヲ
 踏仆シテ死ニ致シ傷ノ輕重ヲ知ラサ
 ルヲ以テ先驅ノ者ヲ首トナシテ論シ
 人命律車馬殺傷人條故ナク街市ニ車
 馬ヲ馳驟シ因テ人ヲ死ニ致ス者ニ擬
 シ
 懲役十年 小林由太郎
 闘毆及故殺條例亂毆シテ人ヲ殺シ傷
 ノ先後輕重ヲ知ラサル者ハ初聞者ヲ
 重罪ニ坐シ餘人ハ云々トアルヲ以テ
 論シ
 懲役九十日 芹澤丈平
 關白川縣伺 爰ニ車丁アリ通客ヲ車
 ニ乗セ公務等ノ故ナク街市ヲ馳驟シ

ニ。閔刑ニ處ス。
 車馬殺傷人
 凡故ナク街市ニ車馬ヲ馳
 驟シ。因テ人ヲ傷スル者ハ。
 凡闘傷ニ。一等ヲ減ス。死ニ
 致ス者ハ。流三等。
 若シ馬驚逸シ。或ハ公務ノ
 急速ニ因リ馳驟シテ。人ヲ
 殺傷スル者ハ。過失ヲ以テ

因テ人ヲ殺傷スレハ人命律車馬殺傷
 人條ニ照シ云々其殺傷セラル、人若
 シ勅奏判及ヒ等外吏遷卒戸長ニ係レ
 ハ各其本罪ニ減一等假令勅任官ヲ
 年ヨリ減然ト雖モ犯ストキ其勅奏判
 一等ノ類然ト雖モ犯ストキ其勅奏判
 云々タルヲ知サレハ名例律本條別有
 罪名條其罪本重カル可シテ犯スル知
 サル者ハ凡人ニ依テ論スト云フニ依
 リ凡闘傷ニ一等ヲ減シ科斷スヘキ哉
 七年十月十日指令 車馬殺傷人律第
 一項ニ依リ勅奏判以下凡人ト同ク處
 分ス
 ○
 六年三月七日第九十五號御布告制定
 同年六月十二日第二百一號御布告府
 縣へ 本年第九十五號布告寫弓殺
 人律云云ノ旨相違置候ニ付テハ一目
 瞭然ノ標索ヲ施設スルハ勿論ノ事ニ
 候得共若シ人々ノ意ニ任セ疎漏ノ舉

論シ。法ニ依リ收贖シテ。其
 家ニ給付ス。
 ○附條例
 第九十條 凡深山曠野。
 猛獸ノ往來スル處ニ於
 テ。旣穿ヲ穿作シ。及ヒ嚮
 弓ヲ安置シテ。望竿。及ヒ
 抹眉索ヲ立サル者ハ懲
 役四十日。以テ人ヲ傷ス

作ヨリシテ重キ人命ヲ誤ルニ立至リ候テハ以ノ外ノ事ニ候間各地方官ニ於テ厚ク注意シ疎慢無之様精々告示可致事

ル者ハ。鬪毆傷ニ。四等ヲ減ス。減シテ本罪ヨリ輕キ者ハ。本罪ニ依テ論シ。死ニ致ス者ハ。懲役三年。仍ホ埋葬金二十五圓ヲ追シテ。死者ノ家ニ給付ス。若シ深山曠野ニ非スシテ。人ヲ殺傷スル者ハ。車馬殺傷人律ニ依ル。

第百九十一條 凡竊弓人

ヲ殺ス者。例ニ依リ。罪ヲ科スト雖モ。貧困ニシテ。埋葬金ヲ追スルコト能ハサレハ。其雇工錢ノ全數ヲ領置シ。食費ヲ除キ。餘ル所ノ雇錢。金二十五圓ニ滿レハ。死者ノ家ニ給シ。仍ホ役限ハ。本法ヲ盡

ス。

庸醫殺傷人

凡庸醫。鍼藥ヲ用ヒ。誤テ本方ニ依ラス。因テ死ニ致ス者ハ。過失殺ヲ以テ論シ。法ニ依リ收贖シテ。其家ニ給付シ。醫ヲ行フコトヲ許サス。若シ故サヲニ本方ニ違ヒ。疾病ヲ詐療シテ財物ヲ取

濱松縣同 醫アリ懲役囚ノ脱曰テ誤認シ打撲振衝トナシ治ヲ施スコト旬日初テ其脱曰ニ係ルヲ知り接骨ノ術ヲ施スト雖モ脱後日久キヲ以テ既ニ關節ノ中間多少ノ肉ヲ生シ接續復舊スヘカラス是ニ於テ囚ハ瘵疾ヲ以テ限内収贖法ヲ用ユ其醫ハ過失傷瘵疾ニ致スヲ以テ論シ收贖シ後來醫術ヲ停止シ可然哉
六年九月廿八日指令 伺之通 但醫業ヲ停止スルノ限ニアラス

ル者ハ。賊ニ計ヘ。竊盜ニ準シテ論ス。因テ死ニ致シ。及ヒ事ニ因テ。故サヲニ藥ヲ用ヒ。人ヲ殺ス者ハ。斬。

威逼致死

凡戸婚田宅。錢債等ノ事ニ因テ。人ヲ威逼シテ。自死ニ致ス者ハ。杖一百。若シ官吏。公使人等。公務ニ因ルニ非

佛蘭西刑
法第六十
四條重罪

スシテ平民ヲ威逼シ。因テ
自死ニ致ス者モ。罪同。并ニ
埋葬金二十五兩ヲ追給ス。
若シ姦ヲ行ヒ。盜ヲ爲スニ
因テ。人ヲ威逼シテ。自死ニ
致ス者ハ。姦ノ成否ヲ論セ
ス。財ノ得否ヲ問ハス。並ニ
斬。

瘋癲殺人

又ハ輕罪
云々其犯
罪ノ時或
ハ任顯ニ
懼リ。或ハ
威迫ニ因
テ。己ハテ
得ス其事
ヲ爲ス等
ニ於テハ。
之ヲ重罪
トモ。輕罪
トモ。爲ス
可ラ入。

凡瘋癲人。人ヲ殺ス者ハ。終
身鎖錮。仍ホ埋葬金二十五
兩ヲ追取シ。死者ノ家ニ給
付ス。若シ二命以上ヲ。連殺
スル者ハ。絞。其親屬。看守嚴
ナラスシテ。他人ヲ殺死ス
ルニ致ス者ハ。杖九十。
若シ瘋癲ヲ假リ。人ヲ殺傷
スル者ハ。謀故殺傷ニ依テ

福岡縣伺云々瘋人一人ニテ一人ヲ殺
害ノ二人ニ重傷ヲ負セ癡疾ナラシメ
三人ヲ刃傷ス依テ埋葬金二十五圓ヲ
追取シ右輕重者ニ分與スルニ癡疾傷
者二十圓ヲ折半シ十圓ツ、與フルニ
二名ニテ二十圓然ル時ハ外三名ニ分
與スルニ四分ノ一ニモ不至況ヤ死者
ノ家ニ給スル能ハサルハ論ヲ不待右
處分ニ差聞居候云々
六年八月廿五日指令 改定律第百九
十二條ノ例ニ依リ瘋人ヨリ四十圓ヲ
追シテ死者一人ノ家ニ給付シ埋葬ノ
資トナスノ外五人ハ疵傷ノ輕重ヲ查
シ過失傷收贖例圖ニ照シテ別ニ追シ
亦各醫藥ノ資ニ分與スヘシ 但シ瘋
人ハ鎖錮終身

之ヲ科ス。

○附條例

第百九十二條 凡瘋癲人
人ヲ殺シ。埋葬金二十五
圓ヲ追スル者。改テ過失
殺收贖例ニ照シ。四十圓
ヲ追シテ。死者ノ家ニ給
付ス。其人ヲ傷スル者ハ。
並ニ過失傷收贖例ニ照

筑摩縣瘋人三名以上ヲ殺傷シ收贖ス
ヘキ資力ナキ者處斷伺ノ指令 七年八
月二十日 瘋人二名以上ヲ殺傷スル者ハ例
第百八十二條ニ依リ處分スト雖モ若
シ貧困ニシテ收贖ス可キ資力無レハ
追徴スル限ニアラス 但シ收贖金ノ
全數ヲ出ス能ハス其幾分ヲ贖フ可キ
者ハ分給シテ埋葬及ヒ醫藥ノ資トナ
ス
北條縣伺 凡瘋癲人ハヲ殺ス者ハ終
身鎖錮仍ホ金二十五圓ヲ追給シ死者
ノ家ニ給付シ候ヘ共一等親ヨリ五等
親マテノ内ヲ殺ス者ハ如何處置仕候
テ可然哉
六年八月廿五日指令 祖父母父母ヲ
殺ス者改定律例第百九十四條ノ通二
等以下ノ親ヲ殺スハ第百九十五條ニ
照シテ科ス可シ

シ。追シテ傷者ニ給シ。醫
藥ノ資ト爲ス。

第百九十三條 凡瘋癲人
二命以上ヲ連殺スル者
ハ。絞。改テ。鎖錮終身。

第百九十四條 凡瘋癲人
祖父母。父母ヲ殺ス者ハ。
鎖錮終身。

第百九十五條 凡瘋癲人

人ヲ殺ス者ハ。鎖錮終身ニ處スト雖モ。若シ果シテ痊愈スレハ。親屬鄰佑ノ保證ヲ取リ。懲役五年ニ改正シ。限滿テ放還ス。

第百九十六條 凡瘋癲人自殺ヲ致スニ。看守人。失察スル者ハ。懲役二十日。若シ人ヲ傷スルニ至ラ

名東縣伺 齊藤源藏妻アイ供曰。私備今ヲ距ルハ。十年前齊藤三郎平ノ養女ト爲ル以來云々。養父ニ深ク寵愛セラル然ルニ如何ナル過去ノ惡縁ニヤ。當六年一月頃。養父ヨリ切迫セラレ遁

シムル者ハ。懲役四十日。

第百九十七條 凡瘋癲人。人ヲ殺ス者。孤獨貧困ニシテ。親屬ノ保管スル者ナケレハ。鎖錮ヲ禁獄ニ換ヘ。埋葬金ヲ追セス。

謀同死

凡姦夫姦婦。同死ヲ商謀スルニ。姦婦已ニ死シ。姦夫未

ル、ニ路ナク不得已遂ニ命ニ從ヒ姦
通ス爾後云々當夫孫藏ヲ養子ニ致セ
シ所到底三郎平ノ意ニ稱ハス去リ述
月日モ立タス離異セハ若設モ彌増ス
高カラント此ニ至テ進退谷マリ或日
養父ノ發意ニ同心シ云々兩人互ニ手
ヲ取リ交ヒ水中ニ投没セシ所他人ニ
引揚ラレ養父ハ五十七年ノ老人ニ付
其夜没故シ私ハ廿二年ノ壯年故々蘇
生シ候
七年二月十七日指令 夫ノ養父ト姦
シ同死ヲ謀テ其養父已ニ死スル者ハ
命律謀同死條姦夫已ニ死シ姦婦未タ
死セサル者ハ並ニ流三等ト云ニ擬シ
懲役十年
アイ
養子配偶前ニ姦スルノ罪ハ輕キニ依
リ除棄ス

タ死セス。姦夫已ニ死シ。姦
婦未タ死セサル者ハ。並ニ
流三等。
若シ同ク謀リ。藥ヲ用ヒテ
墮胎スルニ。姦婦身死スル
者。姦夫ハ。流三等。
○附條例
第百九十八條 凡姦夫。姦
婦。同ク謀リ墮胎スルニ。

翻滋賀縣伺 第百九十九條ノ犯者ア
ルトキハ各其傷ノ輕重ヲ驗シテ罪ヲ
定メ假令ハ姦夫ハ篤疾ニ至リ姦婦ハ
癡疾ニ至ルノ類姦夫ハ人ヲ癡疾ニ致
ス律ニ依リ姦婦ハ人ヲ篤疾ニ致ス律
ニ依リ各一等ヲ減シ科斷スルニ候哉
七年十月廿八日指令 伺之通

姦婦身死スル者。姦夫ハ。
流三等改テ懲役三年。
第百九十九條 凡姦夫。姦
婦。同死ヲ謀リ。傷スト雖
モ。人ニ阻救セラレ。未タ
死セサル者ハ。圍毆傷ニ。
一等ヲ減ス。
私和人命
凡祖父母。父母。及ヒ夫。若ク

ハ家長人ニ殺サレテ子孫妻妾及ヒ奴婢私和スル者ハ徒三年二等親ノ尊長人ニ殺サレ私和スル者ハ徒二年三等親以下各一等ヲ遞減ス。

其卑幼人ニ殺サレテ尊長私和スル者ハ各等親ニ依テ卑幼ノ罪ニ一等ヲ減ス。

若シ妻妾子孫及ヒ子孫ノ婦奴婢人ニ殺サレ祖父母父母夫家長私和スル者ハ杖八十財ヲ受ル者ハ並ニ賊ニ計ヘ竊盜ニ準シ重キニ從テ之ヲ科ス常人他人ノ爲メニ人命ヲ私和スル者ハ杖六十財ヲ受ル者ハ賊ニ計ヘ枉法ニ準シ重キ

ニ從テ之ヲ科ス

○附條例

第二百條 凡家長人ニ殺

サレ。雇人私和スル者ハ。

懲役百日。若シ雇人。人ニ

殺サレ。家長私和スル者

ハ。懲役七十日。

移地界内死屍

凡地界内ニ死屍アルヲ埋

長地主鄰佑人官司ニ申報

セス。輒ク他所ニ移シ及

埋藏スル者ハ。杖七十。水

中ニ棄ル者ハ。杖一百。因テ衣

服ヲ盜取スル者ハ。賊ニ計

ヘ。竊盜ニ準ン。重キニ從テ

論ス。罪流三等ニ止ル。

○附條例

第二百一條 凡墳塚ヲ發

新瀉縣伺 別紙罪案之通墳塚ヲ發掘
シテ屍ヲ殘毀スル者ニ似タリト雖モ

其情ノ出ル所真宗火葬ノ舊習ニ拘泥スル者ニテ素ヨリ惡意アルニ非ス依テ火葬禁止ノ御布告ニ違フ者ニ論シ違令重ニ擬シ自首スルモ減等セサル哉

七年一月十三日指令 已ニ埋葬スル父ノ屍ヲ掘發シ更ニ火葬ヲ行フト雖モ舊習ニ泥ムノ痴情ニ出テ別意アルニ非ルヲ以テ維律違令ノ重ニ問ヒ捕テ聞テ自首スル者ニ付一等ヲ減シ懲役三十日贖ヲ聽ス

贖罪金二圓二十五錢 波部勝平 高知縣伺 讚岐國某村平民某供高知縣下寄留中士族某娘埋葬ノ節棺内種々器具差入ル、由傳承シ忽然盜欲ヲ生シ云々發塚ノ上死體着用ノ小袖博多帶ヲ剝キ尙篋入ノ三絃其它衣類九品盜取云々其價金八圓六十五錢

七年九月廿日指令 他人ノ墳墓ヲ發

掘シテ、棺擲ヲ見ハス者ハ。懲役一年。已ニ開テ、屍ヲ見ハス者ハ。懲役三年。屍ヲ殘毀スル者ハ。懲役五年。

第二百二條 凡地界内ニ死屍アルヲ。輒ク水中ニ棄ルト雖モ。未タ屍ヲ失ハサル者ハ。律ニ照ノ。一

掘シテ棺蓋ヲ開キ死者ノ衣ヲ剝キ物品ヲ盜ム者改定律例二百一條出墳塚ヲ發掘シテ棺槨ヲ開キ屍ヲ見ハス者ニ比擬シ

懲役三年 小林虎藏 罪罪ハ輕シ論セス

新律附例卷之三

等ヲ減シ。懲役九十日。

第二百三條 凡子孫ノ死屍ヲ棄ル者ハ。懲役七十日。

第二百四條 凡變死ニ係ル屍ハ。官ノ檢視ヲ經ルニ非レハ。私擅ニ埋葬スルヲ聽サス。違フ者ハ。懲役四十日。

第二百五條 凡人ヲ押解
 シ。中途ニ在リテ病斃ス
 ルヲ。輒ク棄去ル者ハ。移
 地界内死屍律ニ。一等ヲ
 加ヘ。懲役八十日。

第二百六條 凡地界内ニ。
 棄兒アリ。及ヒ病ニ因リ
 テ。昏倒スルヲ。輒ク他所
 ニ移ス者ハ。懲役七十日。

同行知有謀害

凡同伴人他人ヲ謀害セシ
 ト欲スルヲ知テ。即チ阻當
 救護セス。及ヒ害セラル、
 ノ後。官司ニ首告セサル者
 ハ。杖九十。

○附條例

第二百七條 凡同行謀害
 アルヲ知テ。阻當救護

兵庫裁判所伺 兩人手足ヲ以テ互ニ
闘毆スル内甲ノ毆打衝突ニ因リテ乙
傍ノ墻垣木石等ニ觸レ傷ヲナスルハ
甲ハ仍ホ瓦石棍棒傷ヲナスヲ以テ處
シ候哉 但シ闘毆ノ際自ラ跌蹴シテ
傷ヲナスルハ止々手足ノ闘毆ヲ以テ
科シ候哉
七年五月五日指令 但書共同之通

セスト雖モ已ニ害セラ
ル、後、首告スル者ハ其
罪ヲ免ス。

闘毆律

闘毆

凡闘毆、手足ヲ以テ人ヲ毆
テ、傷ヲ成サ、ル者ハ、笞二
十、傷ヲ成シ、及ヒ瓦石棍棒
等ヲ以テ人ヲ毆テ、傷ヲ成

毆人、亦同、吐血、若止、血流、孔出、仍以、論內、佛蘭、法第、九條、意ヲ、人ヲ、又ハ、シ、及、ニ、他、チ、々、上、二、病、ノ、上、ノ、病、ニ、罹、ル、間、以、テ、

闘新治裁判所伺 人ト闘毆シ因テ財
物ヲ竊取シ又ハ奪去スル者律例ニ正
條無之如何處分可仕哉但初ヨリ竊奪
ニ意アリテ闘毆スル者及ヒ闘毆ノ未
甲勢力敵セスシテ逃去ニヨリ乙竊奪
ノ念ヲ起シ取去スレノ類右相伺候也
八年一月九日指令 人ト闘毆シ虚ニ
乘シ奪取スル如キハ竊盜ヲ以テ論ス
兇ヲ逞シ公然強奪スル如キハ強盜ヲ
以テ論スヘシ 但シ財ヲ圖ル意ハ闘
毆ノ前後ニ拘ラス

サル、者ハ、笞三十、傷ヲ成
ス者ハ、笞四十、血、耳目中ヨ
リ出テ、及ヒ内損シテ吐血
スル者ハ、杖八十。
人ノ一指一齒ヲ折リ、一目
ヲ眇ニシ、耳鼻ヲ抉毀シ、若
クハ骨ヲ破リ、及ヒ湯火ヲ
以テ、人ヲ傷スル者ハ、杖一
百、穢物ヲ以テ、口鼻内ニ灌

或ハ職業
ヲ營スル
ヲ能ハサ
ル等ニ至
ラシメシ
時ハ其犯
人ニ於テ
二年ヨリ
少カラズ
五年ヨリ
多カラサ
ルノ時間
禁錮ノ刑
ニ處セラ
ル可シ云
々癩疾ニ
至テ四肢
及ヒ使用
ヲ不能ハ
ルヲ能ハ
サラシメ
テ兩眼ハ
失明ハシ

入スル者モ。罪亦同。二指二
齒以上ヲ折リ。及ヒ髮ヲ髡
スル者ハ。徒一年。
人ノ肋ヲ折リ。兩目ヲ眇ニ
シ。及ヒ刃傷スル者ハ。徒二
年。
人ノ肢體ヲ折跌シ。及ヒ一
目ヲ瞎シ。癩疾ニ致ス者ハ。
徒三年。

ノ或ハ他
至シシム
ハ其犯人
ニ於テハ
徒刑場内
驅役ノ刑
ニ處セラ
ル可シ
眇謂ハ損
其明猶能
見物折者
斷折其骨
跌者差失
關節而不
聯屬如常
殘疾者不
余之謂如
手折一指
尚能持物
但斷指不

兩目ヲ瞎シ。兩肢ヲ折リ。及
ヒ舊患アルヲ毆テ。因テ篤
疾ニ至ラシメ。若クハ舌ヲ
斷テ。陰陽ヲ毀敗スル者ハ。
流三等。仍ホ金二十兩ヲ追
給シテ養贍セシム。
其同謀共毆シテ。人ヲ傷ス
ル者ハ。各手ヲ下シ。重傷ヲ
爲ス者ヲ以テ。重罪ニ坐シ。

新律附例解正 卷四 毆

完也。殘疾者無用之謂如一手已折全不能持物也。篤疾則瞎兩目折兩肢之類。

翻山形竊伺 鬪毆律若シ鬪ニ因テ互ニ相毆傷スル者ハ云々後ニ手ヲ下シテ理直ナル者ハ本罪ニ二等ヲ減スト有之ニ依テ推考スル片ハ有傷以上ニアラサレハ減等セサルニ似タリ果シテ然ラハ今二人アリテ鬪ニ因リ棍棒等ヲ以テ互ニ相毆テ後ニ手ヲ下シテ理直ナル者理直ナル者ヲ毆傷スレハ減等シテ懲役二十日ニ處シ傷セサレハ減等セスシテ懲役二十日ニ處スヘク相見ヘ權衡ニ疑惑ヲ生シ申候間後ニ手ヲ下シテ理直ナレハ有傷無傷ヲ分タス減等シテ可然哉
八年二月二十四日指令 後ニ手ヲ下シテ毆傷スルモ理直ナル者ハ本罪ニ二等ヲ減スレハ毆傷セサレハ勿論減等ス

原謀者ハ手ヲ下スト雖モ傷輕ケレハ一等ヲ減ス。若シ鬪ニ因テ互ニ相毆傷スル者ハ各其傷ノ輕重ヲ驗シテ罪ヲ定ム。後ニ手ヲ下シテ理直ナル者ハ本罪ニ二等ヲ減ス。篤疾ニ至ラシムル者ハ仍ホ金二十兩ヲ追給シテ養贍セシム。死

ニ至ル者ハ流二等。埋葬金二十五兩ヲ追給ス。兄弟伯叔ヲ毆ツ者ハ本律ニ依リ、後ニ手ヲ下シテ理直ナル者モ減セス。

○附條例

第二百八條 凡鬪毆成傷ト稱スルハ毆ツ所ノ皮膚色青赤ニシテ腫起ス

關滋賀縣伺 刀背ヲ以テ人ヲ毆ツノ
 機ニ刃ニ觸レ傷シ及ヒ鞘ノ儘毆打シ
 其鞘破毀シ刃ニ觸レ傷スルノ類ハ槌
 棒傷ヲ以テ論シ可然哉
 八年三月廿八日指令 傷重キハ刃傷
 ナ以テ論ス
 關茨木裁判所伺 關毆弓筒銃砲ヲ放
 チ人ヲ傷スル者傷ノ輕重ニ拘ヘラス
 刃傷ヲ以テ論スヘキヤ過失傷モ亦過
 失傷例ニ依リ刃傷ヲ以テ論シ收贖金ヲ
 傷者ニ給シ候テ可然哉
 八年四月五日指令 伺ノ通
 但シ傷輕キ者ハ情狀ヲ酌量シテ裁
 等スヘシ

ル者ヲ謂フ。刀ヲ持シ人
 ナ傷スト雖モ。其背柄ヲ
 以テ毆チ。刃ヲ用ヒサレ
 ハ。仍ホ槌棒ト同ク論ス。
 第二百九條 凡關毆。髮。方
 寸以上ヲ拔ク者ハ。懲役
 四十日。若シ一時昏絶セ
 シムル者ハ。懲役八十日。
 第二百十條 凡二人共ニ

人ヲ毆チ。各一目ヲ瞎シ
 盲ニ至ラシムルニ。先キ
 ニ毆ツ者ハ。癩疾律ニ依
 リ。懲役三年。後ニ毆ツ者
 ハ。篤疾律ニ依リ。懲役十
 年。仍ホ養贍金ヲ。二人ニ
 分追ス。若シ原謀者アレ
 ハ。俱ニ毆ツト。否トヲ問
 ハス。後ニ毆ツ者ニ。一等

熊谷裁判所何ノ指令 七年六月九日 老父
人ニ毆傷セラル、ナ聞キ行兇人ヲ追
テ其所ニ至レハ弟亦毆タル於是忿激
禁スル能ハス毆打シテ死ニ致ス改定
律例二百十二條云々ニ比擬シ通シテ
二等ヲ減シ
懲役七年 條原藤作

ヲ減ス。

第二百十一條 凡婦女ヲ

毆テ墮胎セシムル者ハ

懲役二年。

第二百十二條 凡鬪毆人

ヲ殺スニ後ニ手ヲ下シ

テ。理直ナル者ハ。律ニ照

シテ。懲役十年ニ科シ。仍

ホ事情原諒ス可キ者ハ。

又一等ヲ減ス。

第二百十三條 凡鬪毆後

ニ手ヲ下シテ。理直ナル

者ハ。減等シテ罪ヲ科シ。

仍ホ養贍埋葬金兩ヲ追

給スル律ヲ改メ。止々其

罪ヲ科シテ。金圓ヲ追セ

ス。

第二百十四條 凡鬪毆人

此條重在
不敬故忿
爭不問曲
直並答相
毆不問傷
否並杖輯
註宮有犯
行宮有犯
輯亦同此
科註

ヲ傷スルニ。鎌刀。菜刀等
ヲ用ヒ。傷輕キ者ハ。懲役
七十日。仍ホ輕キ者ハ。三
等ヲ減ス。

宮殿内忿爭

凡宮殿内ニ於テ。忿爭スル
者ハ。答五十。相毆ツ者ハ。杖
一百。折傷以上ハ。凡圍傷ニ
二等ヲ加フ。罪流三等ニ止

ル。刃ヲ以テ相向フ者ハ。流
一等。

○附條例

第二百十五條 凡皇城門

ニ。擅入スル者ハ。懲役五

十日。宮殿ニ擅入スル者

ハ。懲役百日。

毆本屬長官

凡吏卒軍民。本屬ノ勅任長

官ヲ毆ツ者ハ。流一等。傷スル者ハ。流三等。折傷以上ハ。絞。其長官ニ非ル。勅任官ヲ毆ツ者ハ。徒二年半。傷スル者ハ。流一等。折傷以上ハ。流三等。癡疾ハ。絞。
若シ奏任長官ヲ毆ツ者ハ。徒二年。傷スル者ハ。徒三年。折傷以上ハ。流二等。癡疾ハ。

絞。其長官ニ非ル。奏任官ヲ毆ツ者ハ。徒一年。傷スル者ハ。徒二年。折傷以上ハ。流一等。癡疾ハ。流二等。篤疾ハ。絞。
若シ判任長官ヲ毆ツ者ハ。杖九十。傷スル者ハ。徒一年。折傷以上ハ。徒三年。癡疾ハ。流一等。篤疾ハ。絞。死ニ至ル者ハ。並ニ斬。

其本屬ニ非ル者ハ各二等ヲ減ス。減シテ罪凡闘ヨリ輕ク若クハ等シキ者ハ凡闘ニ一等ヲ加ヘ加ヘテ死ニ入ル。

○毆官吏律 原毆本屬長官律

第二百十六條 凡勅任官ヲ毆ツ者ハ懲役五年。傷スル者ハ懲役十年。折傷

以上ハ絞。

若シ奏任官ヲ毆ツ者ハ

懲役二年。傷スル者ハ懲

役三年。折傷以上ハ懲役

七年。癡疾ハ絞。

若シ判任官ヲ毆ツ者ハ

懲役九十日。傷スル者ハ

懲役一年。折傷以上ハ懲

役三年。癡疾ハ懲役五年。

青森縣伺 改定律例御頒行以前ノ事
犯ニテ非役士族本屬判任官ヲ毆ツ者
ハ毆官吏律ニ照シ懲役九十日士族ナ
ルヲ以テ開刑ニ換ヘ禁錮九十日申付
可然哉又ハ名例律稱等内人條凡等内
人ト稱スル者ハ初位以上ヲ謂フ士族
モ亦等内ニ準スト有之候上ハ凡闘毆
ヲ以テ論シ手足ヲ以テ毆テ傷ヲナサ

サル者ハ禁錮二十日申付可然哉
六年九月廿二日指令 平民ノ殴ツト
同シ罪ヲ科ス 但シ關殿ノ事由ヲ審
究シ實決開刑ニ區處スヘシ
滋賀縣衙ノ指令 六年七月 平民本属ノ
戸長ヲ殴ツ者ハ凡關傷ニ一等ヲ加ヘ
過卒ヲ殴ツ者ハ又一等ヲ加フ折傷以
上ハ並ニ凡關傷ヲ以テ論ス又平民本
属ノ等外吏ヲ殴ツ者ハ凡關傷ニ一等
ヲ加ヘ折傷以上ハ凡關傷ヲ以テ論シ
晉ル者ハ凡人屬晉ニ一等ヲ加フ

篤疾ハ。絞。死ニ至ル者ハ。
並ニ。斬。

○附條例

第二百十七條 凡判任官
勅任官ヲ殴ツ者ハ。懲役
九十日。傷スル者ハ。懲役
一年半。折傷以上ハ。懲役
五年。癡疾ハ。絞。若シ奏任
官ヲ殴ツ者ハ。懲役七十

日傷スル者ハ。懲役百日
折傷以上ハ。懲役三年。癡
疾ハ。懲役十年。篤疾ハ。絞。
死ニ至ル者ハ。並ニ。斬。
第二百十八條 凡奏任官
勅任官ヲ殴ツ者ハ。判任
官。奏任官ヲ殴ツト。罪同
シ。其勅任官。奏任官ヲ殴
チ。及ヒ奏任官。判任官ヲ

毆ツ者ハ。並ニ。凡闘毆ヲ以テ論ス。

拒毆官司差人

凡官司人ヲ所屬ニ差遣シ。錢糧ヲ追徴シ。公事ニ勾攝スルニ。抗拒シテ服セサル者ハ。杖六十。毆ツ者ハ。杖八十。内損以上ハ。各凡闘傷ニ。二等ヲ加ヘ。罪。流三等ニ止

學未成或
易別業則
不坐
乾隆三十
五年部議
若現在教
授不論已
成未成照
律擬議
擬議

ル。死ニ至ル者ハ。斬。

毆受業師

凡文武百工技藝ノ人。受業師ヲ毆ツ者ハ。凡闘傷ニ。二等ヲ加ヘ。罪。流三等ニ止ル。死ニ至ル者ハ。斬。

○附條例

第二百十九條 凡受業師ヲ毆テ。死ニ至ル者ハ。斬。

改テ。懲役終身。

威力制縛

凡威力ヲ以テ。人ヲ制縛シ。
及ヒ私家ニ於テ。拷打監禁
スル者ハ。有傷無傷ヲ問ハ
ス。並ニ杖一百。折傷以上ハ。
各凡鬪傷ニ。二等ヲ加ヘ。罪。
流三等ニ止ル。死ニ致ル者
ハ。絞

若シ威力ヲ以テ。他人ヲ指
使シ。毆打セシメ。死傷ニ致
ス者ハ。並ニ指使人ヲ以テ
首ト爲シ。下手ノ人ハ。從ト
爲シテ論シ。一等ヲ減ス。
毆家長
凡奴婢家長ヲ毆ツ者ハ。皆
流一等。傷スル者ハ。皆流三
等。折傷スル者ハ。皆絞。死ニ

至ル者ハ。皆斬。過失傷スル者ハ。徒三年。過失殺スル者ハ。流三等。徒流。並ニ收贖スルヲ聽ケス。
若シ雇人。家長ヲ毆ツ者ハ。徒二年。傷スル者ハ。徒三年。折傷スル者ハ。流三等。篤疾ニ至ル者ハ。絞。死ニ至ル者ハ。斬。過失殺傷スル者ハ。各

常律ニ依テ。收贖スルヲテ聽ス。

若シ奴婢。雇人。家長ノ教令ニ違犯スルニ。督責シテ。過_ト逝ニ死ニ致ス者ハ。笞五十。過失殺スル者ハ。各論スルヲ勿レ。

○附條例

第二百二十條 凡雇人家

長ヲ毆テ、篤疾及ヒ死ニ至ル者ハ、絞斬ニ處スル律ヲ改メ、俱ニ懲役終身、第二百二十一條 凡雇人家長ノ教令ニ違犯スルニ、督責シテ、邂逅ニ死ニ致ス者ハ、笞五十、改テ、懲役七十日

毆夫

夫妻妾相毆皆註自告乃坐蓋夫與妻妾同居閨房情可掩法恩可掩義被毆者或念平日恩情願忍受而不發亦當聽之非他人所得參說也故其它親屬皆不言自告乃坐而此獨言之其義可見

凡妻夫ヲ毆ツ者ハ、杖一百、折傷以上ハ、凡鬪傷ニ、三等ヲ加フ。夫ノ親ヲ告ルヲ待テ、乃坐ス。篤疾ニ至ル者ハ、絞死ニ至ル者ハ、斬。故殺スル者ハ、梟。若シ妾夫及ヒ正妻ヲ毆ツ者ハ、妻夫ヲ毆ツ罪ニ、各一等ヲ加ヘ、加ヘテ死ニ入ル。

死ニ至ル者ハ斬。故殺スル者ハ梟。

○附條例

第二百二十二條 凡妻妾夫ヲ毆テ癡篤疾ニ至ル者ハ絞ニ入ル、律ヲ改メ俱ニ懲役終身。妾ノ正妻ヲ毆ツ者モ亦同シ。

毆傷妻妾

大坂裁判所何 盲人ニテ道路取留ラサル風聞ヲ信シ妻ノ密夫アランコトヲ督責セント怒ニ乘リ小刀ヲ以テ妻ノ面部其外三箇所ニ傷負ハセ候者之アリ且妻ニ於テハ傷所全ク平愈致シ其密夫云々ノ如キニ至テハ固ヨリ証跡モコトナシ盲人ノ疑感判然タリ然ルニ該犯ハ妻ノ親ヲ告ルヲ待テ公彈スルニ非ス密夫云々ノ聞ヘ之アルヲ以テ官コリ着手致シ候儀ニ有之旨尋常手足等ニテ毆傷セシ者ト其情狀異ナルヲ以テ毆傷妻妾律中妻ノ親ニ告ルヲ待テ乃坐スト云フニ拘ラス又其罪ニ坐シ可然哉

凡夫。妻ヲ毆ツハ折傷ニ非ルハ論スルヲ勿レ。折傷以上ハ凡人ニ。二等ヲ減ス。妻ノ親ヲ告ルヲ待テ。乃坐ス。死ニ至ル者ハ絞。故殺スル者モ。罪同。妾ヲ毆ツニ。折傷以上ハ。妻ヲ毆傷スルニ。二等ヲ減ス。死ニ至ル者ハ。流一等。

新律附例解正 卷四 毆傷妻妾

塚縣伺 當縣士族某夫ヲ罵リ夫ヲ毆
ツノ妻ヲ以テ迫ルヲ救防シ誤テ之
ヲ刺シ邂逅ニ死ニ致ス科如何處斷可
申付哉

六年九月十四日指令 關毆傷妻
妾條 若シ妻妾ヲ毆傷スルハ夫妻ヲ
毆傷スルト罪同云々過失殺スル者ハ
各論スルヲ勿レト云々以テ擬シ

無罪

掠原政道

福岡縣伺ノ指令 七年六月 毆傷妻妾
律夫妻ヲ毆ナ云々妻ノ親告ヲ待テ乃
坐スト云フハ凡ソ夫婦ノ家ヲ保ツ或
ハ夫ノ卞急或ハ婦ノ長舌等閉門ノ爭
ヒヲ起スハ他人ノ明ニ告許ス可キ者
ニ非ス故ニ妻ノ親告ヲ待テ乃坐スト
云フ大坂裁判所伺官人ノ其妻ヲ毆傷
スル如キ尋常夫婦ノ爭ヲ以テ論シ難
シ故ニ情ヲ量リ不應爲輕重ニ問ヒ云
々

若シ妻。妾ヲ毆傷スルハ。夫。
妻ヲ毆傷スルト。罪同。妾ノ
親ヲ告ルヲ待テ。乃坐ス。過
失殺スル者ハ。各論スルヲ
勿レ。
若シ夫。妻ノ父母ヲ毆ツ者
ハ。杖九十。折傷以上ハ。各凡
一傷ニ。一等ヲ加ヘ。篤疾ハ。
絞。死ニ至ル者ハ。斬。故殺ス

熊谷裁判所伺罪案簡錄 妻ウタ性宿
邪險常々喧嘩口論ニ及ヒ云々某月日
ニ任セテ罵リ刺ヘ拳ヲ以テ私頭上ヲ
打擲セシニ付聊威ヤン爲ニ小刀ヲ以
テ少ク流負ハセン處殺セヤケト相通
リシ故平生ノ憤怒一時ニ發シ忽然殺
意ヲ起シ遂ニ突殺セリ

七年一月三十一日指令 該犯ノ妻ヲ
殺害スルヤ供狀ニ忽然殺意ヲ生スル
ノ文アレハ依殺ニ相當スト雖モ妻屢
夫ノ教令ニ違犯シ罵辱恣弄至ラサル
所ナク刺ヘ拳ヲ以テ夫ノ頭上ヲ毆ナ
仍ホ暴威ヲ逞フス其悖慢無禮自ラ取
ルモノ有リ概シテ故殺ト爲スハ重キ
ニ過ク故ニ其情狀ヲ酌量シ改定律例
二百十二條關毆人ヲ殺スニ後ナニ手
ヲ下シテ理直ナル者ヲ以テ論シ懲役
十年七十年以上ナルヲ以テ
收賻金三十圓 萩原清二郎

ル者モ。罪同。

○附條例

第二百二十三條 凡夫。妻
ヲ毆ナ。死ニ至ル者ハ。絞。
改テ。懲役終身。其故殺ス
ル者ハ。絞。若シ夫。妻ノ父
母ヲ毆ナ。篤疾。及ヒ死ニ
至ル者ハ。絞斬ニ處スル
律ヲ改メ。懲役終身。其故

殺スル者ハ、斬。

毆三等親以下尊長

凡卑幼、三等親ノ尊長ヲ毆
ツ者ハ、徒一年。四等親ノ尊
長ハ、杖一百。折傷以上ハ、凡
間傷ニ、一等ヲ遞加ス。篤疾
ハ、絞。死ニ至ル者ハ、斬。故殺
スル者モ、罪同。
若シ尊長、卑幼ヲ毆ツハ、折

小田縣同 五等親中卑幼尊長ヲ毆ツ
ノ類假令ハ、四等親ノ曾孫ニシテ其高
祖父母ヲ毆ツ如キノ罪モ再從弟妹ニ
シテ僅ニ年長ノ再從兄姉ヲ毆ツ如キ
ノ罪モ鈞シク卑幼尊長ヲ毆ツ以テ論
シ更ニ權衡區別無之哉

七年一月十五日指令 高祖父母ハ等
親中四等親圖ニ掲ルト雖モ人命關毆
等玄孫ノ高祖父母ニ對セシ犯罪ハ祖
父母ト同ク論ス可シ則改定律例第八
十一條ニ詳ナリ其再從弟妹ノ再從兄
姉ヲ毆ツハ何之通四等親ノ尊長ヲ毆
ツヲ以テ論ス何ノ文ニ曾孫ト書タル
ハ玄孫ノ誤ナル可シ

新治裁判所伺 小田縣同ノ御指令ニ
再從弟妹ノ再從兄姉ヲ毆ツハ四等親
ノ尊長ヲ毆ツヲ以テ論スト有之若シ
再從弟再從兄ト互ニ相毆ハ律ニ依
リ從弟ハ懲役百日從兄ハ折傷ニ非レ
ハ勿論ニ處シ可申哉
七年四月廿五日指令 何之通

傷ニ非ルハ、論スルト勿レ。
折傷以上ハ、五等親ノ卑幼
ハ、凡人ニ一等ヲ減シ。四等
三等親ハ、各一等ヲ遞減ス。
死ニ至ル者ハ、絞。故殺スル
者モ、罪同。

○附條例

第二百二十四條 凡卑幼。
三等親ノ尊長ヲ毆チ。篤

疾ハ。絞。改テ。懲役終身。死ニ至ル者ハ。斬。改テ。絞。其故殺スル者ハ。斬。若シ尊長。三等親以下ノ卑幼ヲ毆テ。死ニ至ル者ハ。絞。亦改テ。懲役終身。其故殺スル者ハ。絞。

第二百二十五條 凡卑幼三等親以下ノ尊長ヲ過

失殺傷スル者ハ。並ニ凡人過失殺傷ヲ以テ論シ。收贖スルヲ聽ス。

毆ニ等親尊長

凡弟妹。兄弟ヲ毆ツ者ハ。徒二年。傷スル者ハ。徒二年半。折傷スル者ハ。流二等。癢疾ニ至ル者ハ。流三等。篤疾ニ至ル者ハ。絞。死ニ至ル者ハ。

奈良縣同ノ指令 七年一月 貸金ナ兄ニ促スヨリ兩次兄ニ闘打セラレ憤懣ノ情耐ヘ難ク遂ニ刺刀ヲ以テ兄ヲ傷スルニ依リ同歐律毆ニ等親尊長條弟兄ヲ毆傷スル者 懲役二年半 安井平八 負債ヲ促サレ爭嘆ノ際弟ヲ毆打スルモ兄姉弟妹ヲ毆殺スルノ外論スルナキヲ以テ 無罪 安井喜八郎 父ト叔父ト爭鬪ノ際勢ヲ助ケ叔父ヲ毆打スル者條例二百三十二條ニ依リ

闕段律二等親尊長條姪叔父ヲ毆ツハ兄弟ヲ毆ツニ一等ヲ加ント云ニ依

懲役二年半 安井喜十郎

父ト叔父ト爭鬪後十餘日ヲ隔叔父云々刺刀ヲ以テ父ヲ傷スニ父子ノ間傍親ニ忍ヒス登時叔父ヲ拳毆スルモ二等親尊長ニ係ルヲ以テ常律ニ依リ一等ヲ酌減シ

同二年 安井喜平

京都裁判所伺 祖父母父母及ヒ二等親尊長ヲ過失殺傷ノ文ハ律例ニ相見候へ共謀殺傷ノ頂正條ニ無之右ハ謀殺傍人條闕段ツテ誤テ傍人ヲ殺傷スル者ハ闕段傷ニ準シテ論ス罪流三等ニ止ルト云ニ依リ祖父母父母ヲ誤殺傷スル者ト雖モ懲役十年ニ擬斷シテ可然哉
七年三月十七日指令 闕段ニ因リ誤

皆斬。故殺スル者ハ。皆梟。

若シ姪。伯叔父姑ヲ毆テ。及

ヒ外孫。外祖父母ヲ毆ツハ。

各一等ヲ加フ。癡疾以上ハ。

兄弟ヲ毆ツト罪同。

其過失殺傷スル者ハ。各本

殺傷罪ニ。二等ヲ減シ。收贖

スルコトヲ聽サス。

若シ兄弟弟妹ヲ毆殺シ。伯

テ祖父母父母ヲ傷スル者懲役十年殺ス者ハ懲役終身謀故殺ニ因テ殺ス者ハ故殺祖父母父母律ニ依リ傷スル者ハ毆傷ヲ以テ論ス

白川縣伺 罪案節錄 弟久平儀生來

心得方惡ク云々毎度放箭スレ共開入レヌ野馬ヲ盜ミシ故馬ハ元ニ放テ當人ヲ嚴シク殺戒セシ所尙ホ煙草ヲ盜取セシニ付煙草ハ事主ニ還シ而シ隣家某ト兩人ニテ折檻ヒシ末私拳ニテ打倒シ縛セシ所本人自殺セント申ス故存念通殺リント存シ錄銀ヲ携ヘ墓所ヘ速行キ窟ヲ堀リ右錄ニテ首ヨリ咽ニ懸テ切リ候所皮肉僅ニ残り即死セシヲ窟ニ埋メ組長ヘハ久平悔悟自殺死果サル故手傳ヒ死遂リセント偽リ申出ツ尤其節父久五郎不在ニ付相談不致候
六年八月廿日指令 久平ノ犯罪未タ

叔父姑。姪ヲ毆殺シ。外祖父

母。外孫ヲ毆殺スル者ハ。徒

三年。故殺スル者ハ。流二等

過失殺スル者ハ。各論スル

コ勿レ。

○附條例

第二百二十六條 凡卑幼。

二等親ノ尊長。及ヒ外祖

父母ヲ。過失殺傷スル者

死ニ至ラス父之ヲ父ニ商ラス擅ニ殺
死ス血肉ノ情ニ乏ク人命ヲ輕視スル
如シト雖モ其情官ヲ煩シ祖ヲ辱ムル
ノ義憤ニ出テ而其久平自死ヲ決スル
ノ言ニ因原ス依テ圖毆律毆ニ等親尊
長條兄弟姊妹ヲ毆殺スル者ヲ以テ論
懲役三年

矢野慈三郎

ハ。各本殺傷罪ニ。二等ヲ
減スル律ヲ改メ。殺ス者
ハ。懲役二年。傷スル者ハ。
懲役百日。並ニ收贖スル
トヲ聽サス。

第二百二十七條 凡弟妹
兄弟ヲ毆テ。篤疾ニ至ル
者ハ。絞。改テ。懲役終身。死
ニ至ル者ハ。皆斬。改テ皆

凡稱祖者
曾高同稱
孫者曾玄
同稱子者
男女同子
孫出繼爲
人後本生
祖父母父
母仍依子
孫論女出

大分縣伺 祖父母父母ヲ罵ル者ハ各
親カラ告テ待テ坐スト之アリ候ヘ共
若シ一等親以下ノ尊長ヲ毆テ者罪ニ
坐スルハ各親カラ告ルヲ待テサル儀
ニ候哉
七年二月五日指令 一等親以下ノ尊
長ヲ毆テ者親カラ告テ待テ限ニ在
ラス

絞。若シ姪。伯叔父姑ヲ毆
テ。及ヒ外孫。外祖父母ヲ
毆テ。篤疾及ヒ死ニ至ル
者。罪亦同。

毆祖父母父母

凡子孫。祖父母父母ヲ毆テ。
及ヒ妻妾。夫ノ祖父母父母
ヲ毆テ者ハ。皆斬。殺ス者ハ。
皆梟。過失殺スル者ハ。流三

室、嫁亦同在
嫡繼慈養
母與親母
同論若親
母被出及
父死改嫁
者雖義絕
于父而所
出之恩子
不得而絕
也仍同母
論若嫡繼
母被出改
嫁則義絕
于父無復
母道矣慈
養母被出
改嫁則又
不同以其

1

等。傷スル者ハ。徒三年。並ニ
收贖ヲ聽サス。若シ子孫ヲ
故殺スル者ハ。徒三年。嫡母
ノ殺スハ。一等ヲ加ヘ。繼母
ハ流三等。
其子孫。祖父母父母ヲ毆罵
シ。若クハ教令ニ違犯シテ。
祖父母父母督責シ。邂逅ニ
死ニ致シ。及ヒ過失殺スル

有撫育之
恩也。律無
正文。俱宜
臨事酌量
註

豐岡縣何 罪案節錄 自分養母ト平
生不和ニテ當十月某日爭論ノ末母ヨ
リ火吹竹ニテ私ヲ撃チン故憤怒ノ餘
即其竹ヲ奪ヒ母ノ首ヲ突尺セシ所其
儘絶倒セシニ付此上ハ蘇生致サセ間

者ハ。各論スレ。勿レ。
○附條例
第二百二十八條 凡子孫。
祖父母父母ヲ毆テ。及ヒ
妻妾。夫ノ祖父母父母ヲ
毆ツ律ヲ改メ。毆ツ者ハ。
懲役十年。傷スル者ハ。懲
役終身。死ニ至ル者ハ。皆
斬。故殺スル者ハ。皆梟。過

敷ト右竹ヲ咽ニ横タヘ壓殺シ候
七年一月七日指合 國政律毆祖父母
父母條例凡子孫祖父母父母ヲ故殺ス
ル者

泉示

徳岡政平

失殺スル者ハ懲役三年。
傷スル者ハ懲役一年。並
ニ收贖スルコトヲ聽サス。
第二百二十九條 凡繼母。
前妻ノ子ヲ非理ニ毆打
シテ折傷以上ニ至ル者
ハ凡鬪傷ニ三等ヲ減シ。
死ニ至ル者ハ懲役七年。
第二百三十條 凡子孫。教

令ニ違犯スト雖モ祖父
母父母非理ニ毆殺スル
者ハ懲役二年半。
妻妾與夫親屬相毆
凡妻妾夫ノ二等親以下。四
等親以上ノ尊長ヲ毆ツ者
ハ夫ノ毆ツト同罪。流三
等ニ止ル。死ニ至ル者ハ各
斬。故殺スル者モ罪同。

若シ妻。夫ノ三等親以下ノ
卑屬ヲ毆傷スルハ。夫ノ毆
ツト罪同。妾ノ犯スハ。凡闘
ヲ以テ論ス。

○附條例

第二百三十一條 凡妻妾。
夫ノ二等親以下。四等親
以上ノ尊長ヲ毆テ。死ニ
至ル者ハ。各斬。改テ。絞。其

柏崎縣貫屬士族設樂勇等外祖父復讐
伺ノ指令^{七年一月} 該犯貞三郎官吏
ノ失出ト雖モ恩赦ニ逢フノ罪人ヲ警
トシ控殺スルヲ以テ父祖被毆ノ律ニ
擬ス可カラス依テ捕亡律罪人拒捕セ
サルニ捕吏之ヲ殺スヲ以テ論シ闘毆
殺ニ當ルト雖モ時勢情狀ヲ酌量シ本
罪ニ二等ヲ減シ懲役三年士族タルヲ
以テ開刑ニ換ヘ
禁錮三年宛 設樂 勇
設樂 嘉丸
犯罪三流一減ノ時ニ在ルヲ以テ依新
頒律條例ニ依ル(餘略)

故殺スル者ハ。斬。

父祖被毆

凡祖父母。父母。人ニ毆タレ
子孫。即時ニ救護シテ。還ツ
テ行兇人ヲ毆ツハ。折傷ニ
非ルハ論スル^レ勿^レ。折傷
以上ハ。凡闘傷ニ。三等ヲ減
ス。死ニ至ル者ハ。流三等。若
シ祖父母。父母。人ニ殺サレ。

六年四月七日第三十七號御布告
人ノ殺スハ國家ノ大禁ニシテ人ノ殺
ス者ヲ罰スルハ政府ノ公權ニ候處古
來ヨリ父兄ノ警ヲ復スルヲ以テ子弟
ノ義務トナスノ風習アリ右ハ至情不
得止ニ出ルト雖モ畢竟私憤ヲ以テ大
禁ヲ破リ私義ヲ以テ公權ヲ犯ス者ニ
シテ固ヨリ擅殺ノ罪ヲ免レヌ加之甚

子孫擅ニ行兇人ヲ殺ス者
ハ。笞五十。其即時ニ。殺死シ。
及ヒ曾テ官ニ告ル者ハ。論
スルヲ勿レ。

○附條例

第二百三十二條 凡祖父
母。父母。人ニ殺サレ。子孫
擅ニ行兇人ヲ殺ス者ハ。
謀殺ヲ以テ論ス。其即時

レキニ至リテハ其事ノ故誤ヲ問ハス
其理ノ當否ヲ顧ミス復讐ノ名義ヲ挾
ミ濫リニ相構害スルノ弊往々有之甚
以不相濟事ニ候依之復讐嚴禁被仰出
候自今不幸至親ヲ害セラル、者於有
之ハ事情ヲ詳ニシ速ニ其筋ヘ可訴出
候若シ無其儀舊習ニ泥ミ擅殺スルニ
於テハ相當ノ罪科可處候條心得違無
之樣可致事

ニ殺死スル者ハ。論スル
ヲ勿レ。

第二百三十三條 凡子孫
祖父母父母ト同謀シテ。
共ニ人ヲ毆テ。若クハ祖
父母父母。人ト忿争シ。子
孫ニ指令シテ毆打セシ
メ。及ヒ人ト鬪毆スルニ。
其子孫。勢ヲ助ケテ。共ニ

毆ツ者ハ。俱ニ常律ニ照
シテ。罪ヲ科シ。救護還毆
律ヲ用ヒス。

